

真実を知ってください



エキスタシー

X ピンツ

タマ XTC E

ハグ

drugfreeworld.org

この小冊子が 制作された理由

街 中や学校、あるいはインターネットやテレビの
中で、薬物についてのさまざまな情報が氾濫して
います。その中には正しい情報もありますが、そうで
ないものもあります。

そうした薬物情報の多くは、売人によって広められた
ものです。今では更生したかつての売人は「薬物を買っ
てもらったためなら、どんな嘘でも言っていた」と証言し
ています。

そのような情報にだまされないでください。薬物乱用
という罠を避けるためには、事実を知る必要があります。
この小冊子はそのために制作されたものです。

この小冊子をお読みにになった上で、皆様のご意見や
ご感想をウェブサイト **drugfreeworld.org** から、ま
たはEメール **info@drugfreeworld.org** までお寄せ
ください。



死とダンス?

エクスタシーは違法です。合衆国麻薬取締局はこの薬物を「目録I」、すなわち医療での使用が認められない危険な物質として分類しています。他の目録Iの薬物には、ヘロインやLSDなどがあります。エクスタシーの所持、販売、製造に対しては、25万ドルから400万ドルの罰金が課せられ、4年以上、終身刑に至るまでの懲役が言い渡されることがありますが、それは所持している薬物の量によって変わってきます。

悲しむべきことですが、エクスタシーは現在若者の間で最も人気の高い薬物のひとつです。国連薬物・犯罪事務局によると、エクスタシーの使用者は世界全体でおよそ900万人に上ると推計されています。その大多数が十代の若者や20代前半の人たちです。

エクスタシーにアルコールを混ぜ合わせると非常に危険で、命にかかわることさえあります。エクスタシーがオールナイトのレイブ・パーティーやダンスクラブで乱用される「クラブ・ドラッグ」となって以来、緊急医療室に運び込まれる人々が12倍以上に増加するなど、この「デザイナーズ・ドラッグ（合成麻薬）」の被害は広がっています。



本当にパーティーを したいですか？

ニッキーは、レイブ・パーティーに行く多くの人たちと同じように、自分の問題から逃れ、楽しい時間を過ごす、何人かの友人たちと一晩中パーティーを開くことを計画しました。友人のひとりが、車の中に液体のエクスタシーのボトルを持っており、皆でそれを飲むということになりました。その薬物は、すぐに全員に回されました。その後ニッキーはひたすら踊り続けましたが、それは普段の限界を遥かに超えていました。後に、友人

のひとりが警察の調べで「ニッキーはもう感覚がなくなっていた」と供述しています。

次の朝、ニッキーは死にました。死因は薬物（エクスタシー）中毒でした。

「自分にはそんなことは起こらない」とあなたは思うでしょう。そうかもしれませんが、しかし、本当に自分の命を運に任せたいですか？



「**し** イブ・パーティーで、
エクスタシー死ぬほど飲んで、
何時間もの間『俺はオレンジだ、皮を
むかないでくれ! 俺はオレンジだ、皮を
むかないでくれ!』と繰り返している人を見
ました。自分はハエだと思い込み、
ずっと窓に頭を打ち付けている
人もいました。」 — リズ

エクスタシーとは？

エクスタシーは、1912年にメルク（Merck）という医薬品メーカーによって開発されました。エクスタシーの本来の成分は「メチレンジオキシメタンフェタミン（MDMA）」として知られる向精神薬です。MDMAは1953年に合衆国陸軍による心理作戦の実験に使用され、1960年代には「心理的抑制を低下させる」心理療法の治療薬として再び出現しました。この薬物がいわゆる「パーティー・ドラッグ」として使用されるようになったのは、1970年代以降のことです。

1980年代初めには、MDMAは「化学による幸福感の追求がもたらした最新の成果」、週末のパーティーで使われる「流行のドラッグ」としてもはやされるようになりました。1984年の時点ではMDMAは合法で、「エクスタシー」という商品名で販売されていましたが、1985年までに、安全性に問題があるとして販売が禁止されました。

エクスタシーは、1980年代の終わり頃から、「エクスタシー・タイプ」の薬物を取り引きする売人たちによって、この種の薬物を広く指す「市場用語」に変わっていきまし

た。実際にはそれらの薬物にはMDMAがほとんど、あるいは全く含まれていません。MDMAそのものがもたらす作用も有害ですが、現在「エクスタシー」と呼ばれている薬物には、非常にさまざまな種類の物質が混合されていることがあります。その範囲は、LSDやコカイン、ヘロイン、アンフェタミン、メタンフェタミンといった薬物から、殺鼠剤^{さつそ}やカフェイン、犬の寄生虫駆除剤にまで及びます。売人が錠剤に付けた可愛らしいロゴとは裏腹に、エクスタシーに関して特に危険なのは、使用者が自分の取っているものの実際の中身を知らない、ということです。使用者が以前に体験した快感を求めて、全く違った組み合わせの薬物かもしれないことを知らないまま摂取量を増やすと、その危険性はさらに高まります。

エクスタシーは錠剤の形で売られているのが普通ですが、注射やその他の方法で使用されることもあります。液状のエクスタシーは、実際には「ガンマ・ヒドロキシ酪酸塩（GHB）」という、神経系を抑制する作用を持つ化学物質で、排水管の洗浄剤や床の塗装や仕上げを剥がす薬剤、脱脂溶剤などにも含まれている物質です。

エクスタシーの通称

- × (バツ)
- バッテン
- ペケ
- エックス
- M
- タマ
- E
- エッセンス
- イブ
- ハグ
- ハグ・ドラッグ
- スクービー・スナックス
- ラブ・ピル
- ラバーズ・スピード
- ロール
- X
- スノーボール
- XE
- XTC

夢か悪夢？

- アメリカ合衆国における2007年度「薬物使用と健康に関する全国調査」によると、エクスタシーを試したことのある12歳以上のアメリカ人は1240万人に上ると推計され、この年齢層の5%に相当します。
- 日本では警察庁の調べによると、エクスタシーを含む合成麻薬の押収量は毎年20万錠を越し、2007年では過去最高の1,179,733錠と発表されています。
- エクスタシーを使い始めた人の92%が、後にマリファナやアンフェタミン、コカイン、ヘロインといった他の薬物の使用に走ります。



「ラブ・ドラッグ」

幻想に隠された 真実

エクスタシーはしばしば「ラブ・ドラッグ」と呼ばれます。それはこの薬物が色や音への知覚を高め、また人に触れるとき、特にセックスしている際に感覚を高めると考えられているからです。

しかしエクスタシーは多くの場合人の心に作用し、現実には存在しないものを見たり感じたりさせる幻覚剤を含んでいます。幻覚剤は、過去に味わった恐怖や悲しみを再び体験させます。それはその人が自分でも気付かないまま持ち続けていたものなのです。



「レ イブ・パーティーは別に悪くないよ。エクスタシーを取りさえしなければね。でもレ イブが始まればすぐに、エクスタシーを止める奴がバカに思えてくる。すごいものに出会ったような気分になって、それに反対する奴はおかしい、と信じ込むようになるんだ。エクスタシーにはまりだしたら、もう手遅れだね。どんどんのめり込んでいくんだ。」

ーパット

「ラブ・ドラッグ」というエクスタシーのイメージは、薬物について広まっている多くの間違った情報のひとつです。

エクスタシーは人の感情に有害な影響を与える薬物です。その使用者はしばしば抑うつや混乱、激しい不安、被害妄想*、精神異常といった心理的問題にさいなまれます。

* 被害妄想：他人に対して根拠のない疑い、不信任、恐れを抱く状態のこと。



「**今** 幸運にも生きていますが、心の傷は何年経っても癒えないままです。この薬物を取ったことの代償を一生払い続けなければならないのです。考え付く限りのあらゆることを経験しました。憂うつ、不安、ストレス、何度も繰り返される夜中の悪夢、そしてひどい頭痛 — エクスタシーを取ったせいで苦しんでいることはまだまだあります。ある晩、ほんの数粒のエクスタシーとアルコールを飲んだだけで、危うく死ぬところでした。この薬物は本当に命取りです。死なずにすんでよかったと思います。この悪夢のような苦しみに四六時中さいなまれることがどれほど辛いことか、表現しようがないほどです。汗びっしょりで目覚めるたびに、それがただの悪夢だったことにほっとして、神様に感謝します。そしていつかこの悪夢が消え去るようにと祈るのです。薬物で酔ったり、『ハイ』になることくらい愚かなことはないと思います。」

— ミーガン

エクスタシーの使用が 招く影響

エクスタシーは、身体から発せられる自然な警告信号を抑制します。その結果、この薬物を取る人は、自分の身体の限界や許容範囲を超えてしまう危険性があります。例えば、エクスタシーを摂取した人は、自分の体温が異常に上昇していることに気付かず、熱射病で倒れたり、場合によっては死亡することさえあります。

テキサス州立大学社会福祉調査センターの研究によると、エクスタシーの長期的な影響として、「抑うつ」や「集中力の低下」などが最も頻繁に報告されていることがわかりました。研究者たちは、エクスタシーを繰り返し使用することが睡眠障害や情緒障害、不安、震えや痙攣^{けいれん}、記憶障害などにつながることも明らかにしています。

短期的な影響

- 判断力の低下
- 偽りの愛情感覚
- 混乱
- 抑うつ
- 睡眠障害
- 激しい不安
- 被害妄想
- 薬物への渴望
- 筋肉の緊張
- もうろう状態・激しい悪寒
- 無意識に歯を食いしばる
- 目のかすみ
- 吐き気

長期的な影響

- 思考や記憶に影響を及ぼすような、長期にわたる脳の損傷
- 脳内の、学習、睡眠、感情などの重要な機能を調整する部分の損傷
- 脳内のコミュニケーション機能が損傷を受け、退化する
- 神経細胞の突起部と末端部の退化
- 抑うつ、不安、記憶力の減退
- 腎不全
- 出血
- 精神異常
- 心臓血管の破壊
- けいれん
- 死



「**エ**クスタシーは楽しくて、害のない薬物だと言っている人たちがたくさんいます。知らないのは怖いとしか言いようがありません。

それなりに真面目に生きてきた私が、5ヵ月も夢を追いかけている間に、物事に何の注意も払わない人間に変わってしまいました。『ハイ』になればなるほど、闇の中へ、孤独な場所へと深く陥っていきました。眠りにつくと、悪夢を見て震えました。肌が青ざめ、頭がずきずき痛み、被害妄想を抱くようになり始めましたが、こんなことは別に普通のことだと思い、一切気にしないようにしていました。夜までずっと、自分はもう死ぬのだと思っていました。

エクスタシーは、力、目標、夢、友人、住む場所、お金、そして何よりも正気を奪い去りました。自分の将来や健康はどうなるのだろうと毎日が不安です。問題は山積みですが、ひとつひとつ解決していこうと思っています。幸運にも死なずにすんだのですから。」

— リン



エクスタシーには 中毒性はない？

I クスタシーは中毒性があるのだろうか？
多くの人がそう考えています。しかし、
仮に中毒にならなかったとしても、この薬物に
は極めて危険な4つの要素があります。

危険 その1: 1995年の時点で、市場に出回っているエクスタシーのうち、純粋なMDMAは10% 足らずでした。現在、エクスタシーの使用者が摂取しているものは、さまざまな種類の薬物、そして多くの場合、有毒な物質を組み合わせたものであるのが普通です。

危険 その2: 使用者は、同じ効き目を得るために、薬物を取る量を増やし続けます。エクスタシーの使用者は、1回目の服用以降、その効果は著しく減少すると述べています。そして、さらに多量に薬物を取るようになるにつれ、悪影響も増していきます。

薬物に求める効果が減少すると、乱用者はしばしば、さらに危険な他の薬物を取るようになります。

危険 その3: 使用者は、エクスタシーの効き目が「切れ」て精神的、または身体的な苦痛に襲われたときには、ヘロインやコカインのような他の薬物を使わなければ対処できないと考えるようになる場合があります。エクスタシーを取る人たちの92%が、それ以外のさらに強い薬物も乱用しています。

危険 その4: エクスタシーを取った時だけ良い気分になれるという間違っただけの思い込みから、レイブやテクノ・パーティーに行った時以外にもこの薬物を取りたいと思うようになります。エクスタシーを使用する人の67%が、何度もひどい経験をしているにもかかわらず、この薬物を取り続けたいと望んでいます。



エクスタシーに関する科学的な情報

エクスタシーに関してこれまでに非常に多くの研究が行われています。それには以下のような事実が示されています。

- エクスタシーを摂取すると、肝臓障害を引き起こす可能性があります。例えばある14歳の少女は、彼女を救うための肝臓移植が行われたにもかかわらず亡くなりました。
- エクスタシーには殺鼠剤さつそのような毒物が混ぜ合わされていることがあります。

- エクスタシーの過剰摂取によって、若い人たちが脱水症状、極度の疲労、そして心臓発作で死亡しています。
- エクスタシーは、腎臓や肝臓の損傷に加え、脳組織の長期的な障害を含む脳の損傷をも引き起こします。
- エクスタシーはごく少量でも神経系に有毒であり、取り返しのつかない損傷を引き起こす可能性があります。

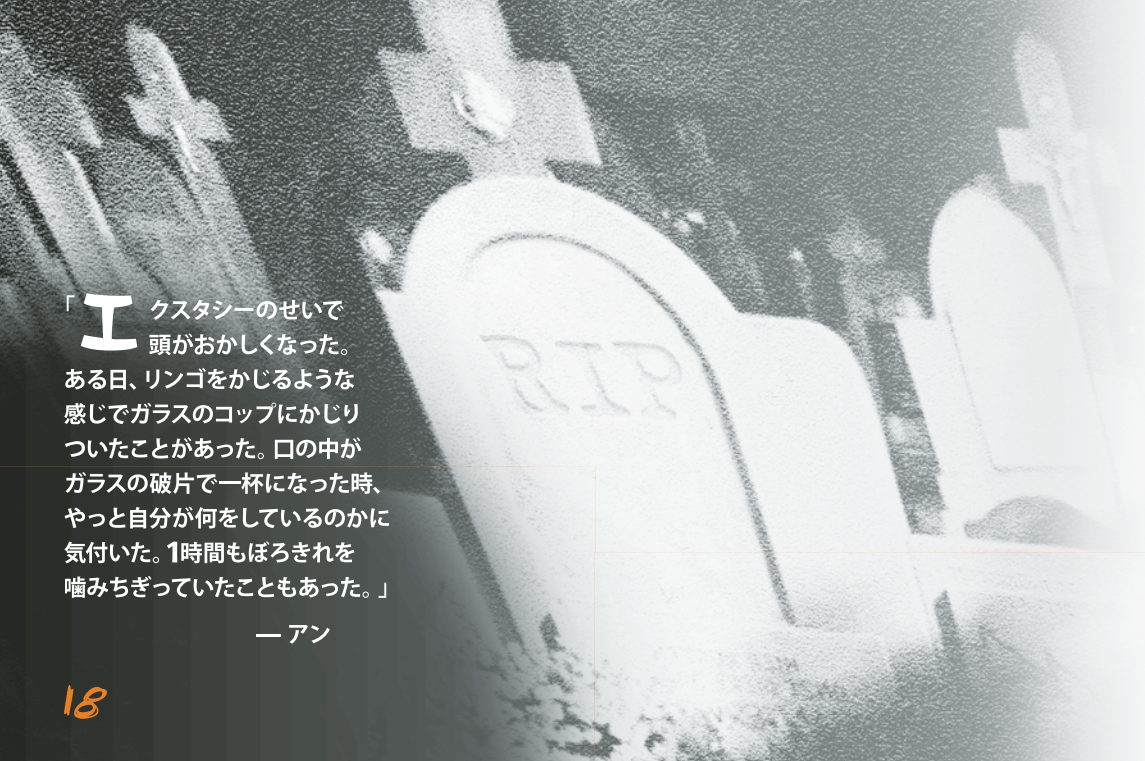
薬物をめぐる 誘い文句

薬物の「よい」イメージの大半は、映画や音楽を通じて美化されたことによるものです。

新しい薬物が初めて市場に現れた時、それが危険であると見なされることはほとんどなく、ずっと後になってようやくその毒性が明らかになるのが普通です。その頃にはすでに被害は広がっており、その薬物が「無害」で

あるという間違った考えが広く受け入れられてしまっているのです。

エクスタシーもこうした誇大な広告の対象になってきました。メディアを分析するある人は、「それはまるで、どこかの賢いマーケティングの天才が考え出したキャンペーンのようだ」と記しています。



「**I** クスタシーのせいで
頭がおかしくなった。
ある日、リンゴをかじるような
感じでガラスのコップにかじり
ついたことがあった。口の中が
ガラスの破片で一杯になった時、
やっと自分が何をしているのかに
気付いた。1時間もぼろきれを
噛みちぎっていたこともあった。」

— アン

薬物の売人がよく使う誘い文句

+ 代の若者へのアンケートによると、薬物に手を出すようになったそもその理由として、55%が「周りの雰囲気流された」と回答しています。彼らには「ダサイ」と思われたくない、カッコよく見られたい、という願望があります。薬物の売人はそのことをよく承知しています。

売人たちは、友達のような顔をして近付き、親切を装って「いい気分になれるもの」を教えてあげると持ちかけてきます。その薬物を使うと「周囲から浮いてると思われなくなる」とか「仲間の中で目立てる」というのです。

薬物の売人はお金だけが目当てです。薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言います。

彼らは「エクスタシーをやっていると女がいくらでも寄ってくる」などと言ってくるでしょう。

売人は「お客さん」が払うお金にしか関心がありません。薬物のせいでその人の人生が台無しになっても気にしません。かつての売人たちは、薬物を買う人を「いいカモ」としか見ていなかったと証言しています。

薬物についての真実を知ってください。そうすれば自分自身で正しく判断できるはずです。

薬物についての真実

薬物は基本的に毒です。その作用は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量に違いがあるだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人の心にも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだものになってしまう可能性があります。その結果、その人の行動

は奇妙だったり、不合理であったりするかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物はすべての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。

本当の解決策は、事実を認識し、
最初から薬物など使用しない
ことです。

なぜ人は薬物を取るのでしょうか？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、以下のものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 問題から逃避するため。
- リラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にしかありません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし、薬物によって解決しようとしている問題よりも、薬物を使用した方が常に悪い結果を招きます。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。



参考文献

合衆国麻薬取締局

National Institute on
Drug Abuse

Drug Policy Information
Clearinghouse

“Club Drugs Facts & Figures,”
Office of National Drug
Control Policy

2008年 世界薬物報告書
国連薬物・犯罪事務所

Center for Substance Abuse
Research

British Medical Journal

合衆国国立衛生取締対策局

Department of Health (UK)

2007 National Survey on Drug
Use and Health

2009 International Narcotics

Control Strategy Report, 27
Feb 2009

写真:

7ページ: stockxpert.com

9ページ: istock.com

18ページ: stockxpert.com,
bigstockphoto.com

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに22の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。新しいドラッグが次々と世の中に出回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっていきます。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団は、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。

真実を知ってください：薬物

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤・吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

さらに情報を知りたい方、またはこの小冊子シリーズのいずれかをさらに何部かご希望の方は、下記までご連絡ください。



Foundation for a Drug-Free World
1626 N. Wilcox Avenue, #1297
Los Angeles, CA 90028 USA
drugfreeworld.org
info@drugfreeworld.org
1-818-952-5260

薬物のない世界のための財団
日本支部

〒170-0001 東京都豊島区
西巣鴨1-17-5
パークホームズ西巣鴨308
TEL : 03-5394-0284
Eメール : info@drugfreeworld.jp
drugfreeworld.jp